分校だより 5月号

地域と共に歩む
大曲農業高等学校太田分校
〈ＴＥＬ〉０１８７（８８）１３１１
〈ＦＡＸ〉０１８７（８６）９０３５

第14回全校田植え競技会

爽やかな風が吹く中 速さと技術を競い合う

●今年で14回目を迎えた「全校田植え競技会」が、5月26日(水)、太田分校実習田で行われました。競技会前日の放課後には、農業コース、GLクラブ、農業委員会の生徒たちが、水田に植える場所の型付け作業とクラス毎の区画分けを行いました。前日夜には強い雨が降り、所々消えて印が見えなくなるトラブルもありましたが、当日は穏やかな日差しと少し肌寒さのある爽やかな風が吹く中、熱気溢れる田植えとなりました。太田南小学校とわんぱくランドこども園の児童の皆さんも応援に駆けつけ、賑やかな歓声が響き渡りました。

大会は植え付けの速さと正確さを競いました。印が見えにくい所では多少曲がりが目立つ場所もありましたが、各学年、昨年以上に正確に植えられていたようです。

以下、今年の全校田植え競技会の様子を写真を交え紹介します。

型付け作業

●田植え競技会前日の放課後、二・三年生の農業コースを選択している生徒、農業委員、GLクラブの生徒が田植え準備作業を行いました。型付け作業とは、30センチ幅の型付け道具を縦横に引っ張り印を付ける作業です。主に二・三年生の農業コースの生徒たちが担当しました。水田に入り、慎重に植え付ける印を付けてくれました。真っ直ぐ田型を引くのは至難の業で、時折蛇行を繰り返し難儀したようです。予定していた24アールの水田の型付け作業には二時間半ほどかかったようです。また、面積を測量し、学年の境界に目印のヒモを張る作業や苗の配分など、全校田植え競技会の準備に一生懸命取り組んでくれました。

開会式

●今年の開会式はマスコミの方も多く訪れ、賑やかな開会式でした。

はじめに校長先生からご挨拶をいただきき、農業委員長伊藤温叶君の挨拶、高田京助先生から植える際の諸注意がありました。

農業委員長　三年　伊藤温叶君

●今年も太田分校伝統の「全校田植え競技会」の季節を迎えました。今年で14回目の開催となります。今年も新型コロナウイルス感染症の影響があり、恒例の田植え行事を開催できるのか心配でした。まだまだ不安はありますが、今日は極端に密集することを回避しながら、今年の豊作を願い、みんなで頑張っていきたいと思います。

さて、米作りには長い歴史と米を守り続けてきた先人のたゆまぬ努力があります。今日は米の豊作を願い、恵まれた自然を相手に、全校をあげて、昔ながらの手植え作業を体験し、農のもつ厳しさと土の感触を味わいましょう。

【作戦会議】

●開会式後、各学年で作戦会議を行いました。一年生には初めての競技会で、不安と緊張でいっぱいだったようです。二・三年生は昨年の経験を踏まえて、綿密な作戦を立てていました。農場部の先生が各学年に付き、どのように植えたら効率よく丁寧に植えることができるのか作戦を授けます。どちらも最後は円陣を組んで、声高らかに気合いを入れていました。

【競技開始】

●栗原教頭先生のスタート合図で競技開始。合図と共に苗の固まりを水田に投げ入れ、一斉に歓声を上げながら水田に入りました。競技は序盤から二・三年生がペースをつかみ一進一退。三分の一ほど同じようなペースで植えていましたが、経験に勝る三年生が徐々にリード。二年生も食らいつきますがなかなか追いつけません。三年生は中盤以降もペースが落ちずそのままゴール。七分遅れで二年生が続きました。その後、三年生と二年生が遅れている一年生の区画へ手伝いに入って、全体の完成タイムの記録更新を目指します。みるみる植えられていく苗。46分19秒で、約24アールの水田への植えつけが完了しました。昨年の47分58秒より一分以上タイムを縮めました。

前半は横一線

ちびっ子達も大きな声で声援

号砲と共にスタート

中盤は三年生が一歩リード

閉会式

●優勝は三年生で、時間は31分32秒でした。栗原教頭先生から講評を頂いた後、各学年で記念写真を撮り、今年の田植え競技会を無事終えることができました。結果は次の通りです。

優勝	三年生	31分32秒
準優勝	二年生	38分45秒
努力賞	一年生	46分19秒

いよいよ終盤 ゴールは目の前

スマホ・ケイタイ安全教室

●5月14日(金)、ネットトラブルへの対処法や携帯電話・スマートフォンを使う上でのルール・マナーに加え、被害者と加害者双方の立場の理解を通じて、生徒の規範意識を高めるために、全校生徒対象へのリモート授業が初めて行われました。

こころの健康教室

●5月21日(金)、自分の可能性を安心して育てていける方や人間関係を探究する時間として、また、支え合う人間関係や自分らしく生きるとは何かを考えるきっかけにしてほしいと行われました。